

支援をつなぐ

笑顔をつなぐ

個別の教育支援計画を作成・活用しましょう

個別の教育支援計画は

- 自立と社会参加を目指し、**一人一人のニーズに応じた支援**をするためのものです。
- 学校(園)、家庭、地域、医療、福祉、保健、労働等の関係機関が**連携して支援**をするためのものです。
- 長期的な視点に立って、**幼児期から学校卒業後までの切れ目ない支援**をするためのものです。



個別の教育支援計画を作成・活用することで…

- ☆ 子供一人一人に適切な支援ができる
- ☆ 子供に関わる人たちが力を合わせて効果的な支援ができる
- ☆ 必要な情報や適切な支援を確実に引き継ぐことができる

対象は、特別な教育的支援を必要とする子供です。

学校(園)が作成します。内容については、保護者や本人と必ず共有します。

計画の作成と活用にあたって



1 一人一人の適切な支援のために

- 子供や保護者の願い、困っていること、これまで受けてきた支援などの必要な情報を交換して整理します。
- 将来どんな姿を目指すのかを話し合います。

目標や情報の共有が
とても大切



2 関係者が連携・協力した効果的な支援のために

- それぞれの場での様子や対応の工夫など、支援に役立つような情報を交換します。
- 個別の教育支援計画を仲立ちとして、支援の目標・内容・方法を共有します。

横のつながりが
とても大切



3 切れ目のない確実な支援の引き継ぎのために

- 支援の内容や方法、効果を、進級・進学先に引き継ぎ、受け取った側は、支援に活用します。
- 個人情報適切に管理します。

縦のつながりが
とても大切



期待される効果 こんな声が聞かれます！



1. 本人に合った適切な支援をすることで…



本人

自分に合った方法を考えてもらったよ。安心してみんなと勉強できるようになったよ。

担任の先生に、今、困っていることや家庭で効果があった支援を聞いてもらい、一緒に目標を立てることができました。これからの子育てに見通しがもてました。



保護者

2. 子供に関わる人たちが連携・協力することで…



本人

放課後等デイサービスでも、学校と同じやり方で手伝ってもらえるので安心！

お医者さんや放課後等デイサービスの方にも、子供の状況や目標が分かりやすく伝わりました。みんなでチームになって支援されているようで、安心です。



保護者



放課後等
デイサービスの
スタッフ

目標や方法を共有して、学校と同じように支援することができました。本人は、放課後等デイサービスで生き生きと過ごしています。

3. 進学する学校に支援を引き継ぐことで…



本人

中学校の教科の時間も、自分に合ったやり方を工夫してもらえるので、落ち着いて学習できます。

入学時から本人に合った対応を工夫してもらえて安心しています。



保護者



小学校の教員

本人の得意なことを生かした支援を積み重ねてきたので、進学先でもこれまでの支援を継続して力を伸ばしてほしいです。

支援情報を引き継ぐことで、本人に合った学習方法などを工夫できました。



中学校の教員

個別の教育支援計画作成例

児童生徒	氏名	(ふりがな)	性別
担任	氏名		
在籍校			

将来についての希望	
児童生徒	※1～3年後にどのような
保護者	生活を送っていたいか など

支援目標を決める際の参考にします。

現在困っていること	
児童生徒	
保護者	

支援の目標及び必要と思われる支援	
※本人の将来を見据え、家庭や関係機関と連携して、3年程度で達成を目指す目標	

合理的配慮	
※学校生活を通して十分な教育が受けられるようにするために必要で適切と考えられる変更や調整	

関係機関の支援	
教育	
家庭	※「支援の目標及び必要と思われる支援」
医療	「合理的配慮」を受けて、関係機関で
福祉	取り組む具体的な支援目標・内容

関係機関等における支援歴等の一覧	
※これまでに利用していた機関や利用期間など	

支援の評価と課題	
※効果のあった支援、今後の課題など	

作成と活用の流れ

作成準備

- ★本人や保護者への聞き取り
 - ・本人や保護者の願い
 - ・現在困っていること
 - ・本人の好きなこと、得意なこと
 - ・今までの育ちの中で気がかりだったこと

計画の作成

- ★保護者と一緒に支援目標・内容を確認

支援目標・内容の決定、支援の開始

関係機関と情報交換

- ★支援の効果を振り返り、話し合い

支援計画(目標・内容)の見直し

進学先等に引き継ぎ

引き継ぎ情報の活用

- ★は、保護者と教員が一緒にすること

本人や保護者の願いを踏まえて学校(園)が考え、本人や保護者と共有します。

本人や保護者と話し合いながら考えていきます。

関係機関についての情報は、本人や保護者から聞き取ります。本人や保護者の同意を得て、関係機関と必要な情報交換をしながら、連携して支援を行っていきます。



よりよい支援のために大切なことは…

- 子供に関わる人や関係機関等で、随時、連絡をとったりケース会議を行ったりして、子供の情報を共有しましょう。
- 支援の方向性について共通理解をし、それぞれの専門性を活かして役割を分担し、それぞれができる支援をしていきましょう。
- 子供の様子は、日々、変化していきます。節目ごとに計画を見直し、子供の実態に合った支援や目標に変更していきましょう。



Q & A

Q 作成した後の管理はどうなりますか？

- A** 計画は個人情報になりますので、作成した学校が責任をもって保管します。記載内容に変更等があれば、学校へ連絡してください。訂正、追加等を行い、最新の情報にします。
- 次年度への引継ぎは、保護者の同意を得て学校が行います。進学時には、学校と相談して、確実に引き継がれるようにしましょう。

Q 作成することで、不利になることはありませんか？

- A** 成績や受検、進学において、不利になることはありません。子供に必要な支援・配慮をしてもらうことで、安心して学習や受検をすることができます。

Q 連携する機関はどのようなものがありますか？

- A** 教育関係…在籍する学校、市町村や県の教育センターなど
医療関係…かかりつけの病院、言語聴覚士など
福祉関係…放課後児童クラブ、放課後等デイサービス、相談支援事業所など
労働関係…ハローワーク、障害者職業センターなど
地域関係…スポーツ少年団、地区児童会など があります。

支援をつなぐ 笑顔をつなぐ

個別の教育支援計画を
作成・活用しましょう

令和6年4月

〒930-8501

富山市新総曲輪1番7号（電話 076-431-4111）

発行・編集 富山県教育委員会

教育みらい室特別支援教育課